

編集後記 「みんな…がんばれ。」

さる週刊ダイヤモンド 3月26日号の特集は、「ニッポンご当地まるごとランキング」。

僕はよく故郷の宮崎の話をするので、「またか・・・」と思われることも多いと思うのですが、そんな郷土愛は、どうやら僕に限ったことではないようです。

この本に「愛着度と自慢度から見る『郷土愛ランキング』」のアンケート結果のページがあったのですが、宮崎県民は愛着度全国8位、自慢度全国9位と上位に位置しています。フムフムやっぱりです。だから僕の話もしょうがないのです。どうかお許しあれ。m()m
ちなみに愛着度の全国1位は北海道、自慢度の全国1位は京都府。

その他、『郷土愛ランキング』を見ると、とにかく九州各県が目立ちます。

例えば自慢度ランキングでは、**3位沖縄 4位福岡 5位熊本 6位大分 8位鹿児島 9位宮崎 10位長崎**といった感じで、なんと**トップ10のうち7つを九州が占めています。**(^_^)v

つまり九州の人間は自分のところが1番と思っているのです。なんて能天気な九州人。九州人バンザイです！

その九州・熊本を中心に大きな地震がありました。しかも広範囲にわたって規模の大きい地震が連鎖し、被害が拡大する異例の事態。目を疑うような映像。不安に怯える被災者の緊張感が伝わってきて心が痛みます。僕にも熊本在住の友人がいますが、FaceBookの安否情報で無事を知りました。

とりあえずホッとメールしようと思ったのですが、何と言ったらいいのかわかりません。

「大変やな」って、なんか他人事になっているような、おこがましいような、・・・。

「がんばれ」ってのも何か無責任じゃないのかな・・・。

四の五の言う前に、ボランティアに行こうと言う人もいるかもしれませんね。

大阪府には、以前、ボランティア活動のために通常の有給休暇とは別枠で5日迄休暇を取ることができる、**ボランティア休暇制度**がありましたが、橋下徹氏が府知事時代にその制度を止めさせました。

「国と地方の公務員制度にボランティア特別休暇なるものがある。ボランティアをするために仕事を休み、そして給料が出る。僕は昨年、その制度を廃止した。ボランティアは無給だろうし、しかも休みをやりくりして行くものだろうと。そんなことで休みが取れるならそもそも役所に人が多過ぎるのではないかと」

(橋下徹当時大阪府知事 2011. 4. 29の Tweet)

僕もボランティアは見返りを求めず自分の大切な時間をやりくりしてやるから、素晴らしいのだと思います。また、ボランティア休暇制度が無く年次有給休暇を取得して行く場合も、年次有給休暇は社員の権利とはいえ、**休暇取得中は他の仲間に負荷をかけたり、業務の進行が遅れたり、お客様に迷惑をかける可能性がある**ことを十分認識し、準備万端の上でボランティアに行くべきだと思います。

東日本大震災の時には多くのボランティアが東北を訪れました。

ですが、衝動的に訪れた一部のボランティアが結果的に地元の食料や水や宿舎を奪うことになり、ボランティアを整理する為のボランティアが必要になるという、地元を困らせる本末転倒の事態も起きたと聞きます。これだけの災害。被災からの復興には、これから何年もかかると思います。

もちろんボランティアもいいのですが、慌てて被災地に行かずとも、支援は継続することが大事。早々に被災地にボランティアに行くことの他にも、きっとできることがあるはず。

未明にまさかの本震が襲った16日。その日のJリーグは熱戦が多かったように感じました。平塚の試合では、獅子奮迅の活躍を見せた鹿島アントラーズの熊本出身の植田直通選手を試合後のスタンドのファンは「植田コール」で包みました。

インタビューから、「**熊本出身の植田選手にとっても今日は特別な思いを持ってのプレーだったと思います。**」とマイクを向けられた植田選手は、そのまま30秒ほど絶句し、ついにこらえきれず涙を流しました。

理屈じゃない。本当に悲しいことは腹の中にあるもの。

あなたの故郷への思いはよくわかる。一応僕も九州の人間だ。うん。

彼を見て僕は心から思いました。

被災地の人も、救援活動をされている人も、**みんな…がんばれ。**

※この原稿は平成28年4月18日に書いています。

アヴニール労務事務所 所長柿野元博

http://www.avenir-sr.jp

E-Mail avenir4you@gmail.com

